

会長挨拶

第17回日本エイズ学会学術集会・総会の開催にあたって - 「アジア太平洋地域のエイズ問題と予防・医学のフロンティア」 -

1. アジアと日本の状況

HIV流行が勃発して20年以上が経過しました。初期の楽観論や予測を尻目に、今や全世界で4200万人のPWHA（HIV/AIDSとともに生きる人々）が存在する大流行へと発展し、サハラ以南アフリカでは、国家存亡の危機を迎える国々が生じるなど、HIV流行は、保健問題を越えた次元へと進展しつつあります。約10年遅れて流行が始まったアジアでも、これまでにHIV流行は全域に拡散し、いよいよ本格的な流行期に突入することになります。国連合同エイズ計画（UNAIDS）の予測では、2010年までに新たに1800万人以上の感染者が発生するとされ、米国の国家情報評議会（CIA諮問機関）の予測では2010年時点のPWHA数は、中国で1000万人以上、インドで2000万人以上、ロシア500万人以上と見積もられており、アジア・近隣諸国が、今後桁違いの流行に見まわれることがほぼ確実視される状況に至っています。

しかし、翻って日本を見れば、性感染症の急増、10代の人工妊娠中絶率の上昇、コンドーム販売量の激減と、HIV予防と逆行する現象が進行しており、HIV流行は加速度的に拡大を始めています。このままでは、アジア・近隣諸国の流行の影響をまともに受けた重大な事態が近未来に生じることは不可避と思われ、今や、わが国のHIV流行も重大な岐路に立っていると言わざるを得ません。

2. 学会の開催趣旨と準備

今回の学術集会では、こうした認識を参加者全員で共有し、私たちが、日本のエイズ問題のみならず、アジア・近隣諸国を含めた国際的エイズ問題にどのように関わっていくべきかを考え、かつ、最新の研究成果や経験を交流する中でエイズ問題解決の展望を拓く場にできればと考えております。今回のテーマを「アジア太平洋地域のエイズ問題と予防・医学のフロンティア」としたのは、そうした意味からです。この開催趣旨が十分発揮される学術集会になることを心から願うものです。

しかし、本学会の準備は順調に出発したわけではありません。それどころか、SARS流行のあおりで、本来第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議（7thICAAP）が延期となり、本来7thICAAPと合同開催される予定であった本学会が、単独開催に決定したのは本年7月上旬のことでした。実行委員会としては、短期間にどれほどの準備が可能かと途方に暮れる思いの出発でしたが、これまでに匹敵する演題数を応募いただき、特別講演も、臨床、基礎、予防、社会の

それぞれの分野で、トップクラスの業績を有するスピーカーをお招きすることができ、また、シンポジウムの企画も公式シンポジウム11（国際シンポジウム2つを含む）、サテライトシンポジウム13、ランチョンセミナー2と短期間に予想外の数と多様な内容の応募をいただくことができました。実行委員会の呼びかけに応じて、学術集会の成功に向けて尽力いただいた学会員や関係者の皆様のご厚情に学会長として幾重にも御礼を申し上げます。

3.本学会の特徴と見どころ

今回の学会には、以下のような多くの特徴や見どころがあると思います。

(1)7th ICAAP関連企画等

2005年に延期された7th ICAAPに向けた機運を高めるために、いくつかの関連企画や会議が開催されます。7th ICAAP組織委員会との共催による2つの国際シンポジウム「アジア太平洋の課題：科学とコミュニティの叡知の統合」「アジア太平洋地域で進む『HIV治療へのアクセス』～日本は何をなすべきか」と題する国際シンポジウムには、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、アジア太平洋エイズ学会（ASAP）、アジア地域の主要エイズ関連NGOネットワークの代表が参加し、学会中に、7th ICAAPの国際諮問委員会やASAPの理事会などが開催されます。また、同時期にわが国で開催されるエイズ関連国際研修コースの参加者が学会に合流する予定であり、総勢で70人近くの海外参加者を迎えることとなります。また、7th ICAAPに関連して、「ユース」関連のサテライトシンポジウムが開催される他、市内の神戸アートビレッジでは、会期中、7th ICAAP組織委員会の主催によるKAVCAAP（HIVとアートに関連するイベント）が開催されます。

これらは、7th ICAAPとの関連で生じたこととは言え、今後の日本エイズ学会の国際性や多様性を一段と高める重要な契機となるものと期待されます。

(2)基礎医学系の企画

特別講演として、Dr. パンタレーオ（ローザヌ大学）による細胞性免疫の多様性とワクチンに関する講演が行われますが、これに対応して日本の研究者によるワクチン開発の現状とHIV感染防御免疫をテーマとしてシンポジウムが開かれます。HIV感染に対する複雑な宿主免疫反応を明らかにする上でも今後のワクチン開発にも有益な情報を提供できるものと期待されます。またシンポジウム「HIV複製：分子からの解析」では、ウイルス複製機構の分子レベルでの解析から、その詳細を明らかにし抗HIV戦略の構築を目指した研究が発表されます。

(3)臨床系の企画

臨床系では、元国際エイズ会議会長のM.ウェインバーグ博士（レディデービス医学研究所）による「抗HIV治療の最新の進歩と課題」と題する講演が企画され、薬剤耐性の問題を中心に、HIV治療に関する先進国の現状や地球的課題が、過去、現在、未来を通観して論じられる予定です。それに対応して、シンポジウムでもわが国における薬剤耐性の問題についてのシンポジウムが開催されます。その他、臨床系では、「HIV/HCV重複感染症の治療」、

「HIV感染症と病みの軌跡」、「治療開始&継続困難症例へのアプローチ」、「女性とHIV - カウンセリングを通して考える」、「歯科医療スタッフができること - 診療と教育の現場」など、多彩なシンポジウムが企画され、これまでにない切り口のものが登場しています。一般演題では、新薬開発に関する報告や最近の話題のひとつである免疫再構築症候群が注目されると思います。

(4)疫学・予防・社会系の企画

疫学・予防・社会系からは、2つの特別講演が企画されています。ひとつは、S.キパックス博士（オーストリア国立エイズ社会学研究所）による「医学的健康から社会的健康へのパラダイムシフト」とする講演で、リスクと責任の概念について医学的捉え方と社会科学的捉え方を対比し、社会科学がこの間の予防やケアについて果たしてきた役割を論じます。もうひとつの講演は、G.プレステージ氏（オーストラリア国立HIV疫学センター）による「HIV予防介入プログラムにおける社会科学の視点 - シドニーのゲイコミュニティをケーススタディとして」と題する講演で、ゲイコミュニティにおけるHIV問題に社会科学が果たした役割やゲイコミュニティが現在直面している課題などが論じられます。

サテライトシンポジウムでは、初めて薬物関係のサテライトシンポジウムが2本登場したことが注目されます。薬物とHIV流行には強い関連が存在するにも関わらず、これまで日本エイズ学会では、薬物関連の企画は皆無でした。これは、7thICAAPを契機としてHIVコミュニティが拡大したことも関連するものと思われ、歓迎すべきことと思います。また、予防介入関係のサテライトシンポジウムが増加したことも特徴として挙げられます。若者、滞日ラテン系住民、ゲイにおけるコミュニティレベルの予防介入に関して、新しい経験の交流や、新たな発展への検討が行われます。若者では、昨年来某県で行われているスケールの大きいわが国最初の予防介入（WYSHプロジェクト）の成績や経験が、研究者、保健師、教員、保護者等によって報告され、滞日ラテン系住民のシンポジウムでは、ブラジル本国から重要なスピーカーを招き、世界に名高い“ブラジルモデル”に学びつつ、今後の予防介入の展開のあり方を検討します。ゲイコミュニティの予防介入に関しては、コミュニティ活動のあり方を、他のコミュニティモデルに学びつつ再構築する方向が論じられる予定です。

(4)市民公開シンポジウム

最近の学会では恒例となった、市民公開シンポジウムが開催されます。今回は、「現代の若者に何が起きているか」というタイトルで、性行動研究、産婦人科診療、養護教育、犯罪心理、メディア研究などを専門とする女性パネリストによって、若者の問題が歴史的かつ多角的に討議されます。性行動を含めて若者に生じている様々な変化を議論の俎上に乗せ、その根底にある問題を聴衆とともに考えようという意欲的な企画です。

(5) 地元との連携

地元自治体と学会との連携が進みました。7thICAAP組織委員会の主催によるKAVCAAP2003という企画、兵庫県等主催のエイズフォーラム、神戸市主催の神戸市エイズ予防啓発キャンペーン、3都（京都、大阪、神戸）保健所主催の京阪神3都市世界エイズデー記念イベントが、それぞれ学会期間中に神戸市内で開催されることになっています。これらの企画の広報で日本エイズ学会が紹介されることになるため、これまで以上に広く市民に認知されることが期待されます。

4.最後に

最後に、財団法人エイズ予防財団には様々な面で多大のご支援と協力をいただきました。また、厳しい経済状況にもかかわらず、開催趣旨に賛同した多数の企業や団体からも、サテライトシンポジウムやランチョンセミナーへの参加、展示、寄附をいただきました。この機会を借りて、感謝申し上げたいと思います。また、事務局を依頼した（株）コンベンションリンクージュには、献身的な仕事振りで、不可能と思われた学会準備を可能にしてくれことに感謝したいと思います。